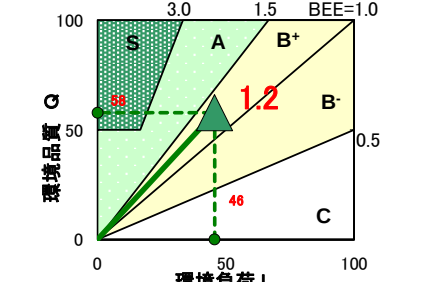
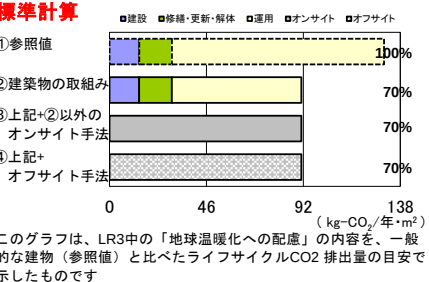
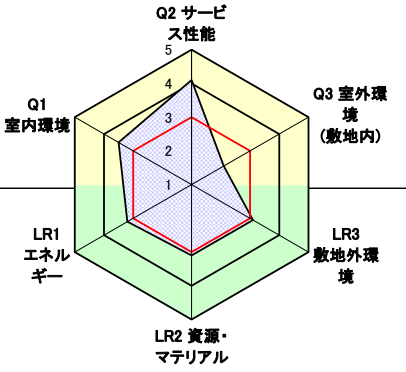
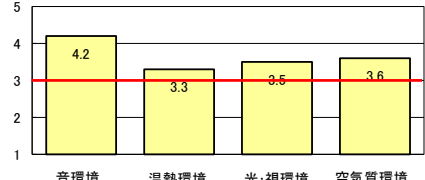
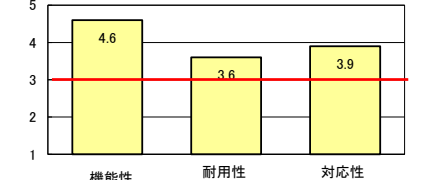
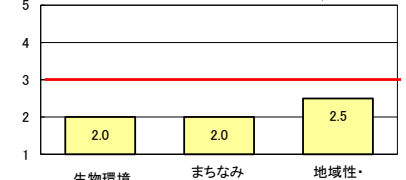
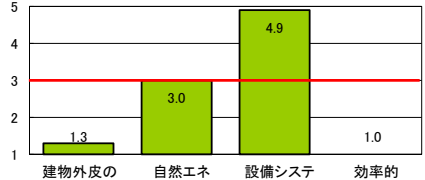
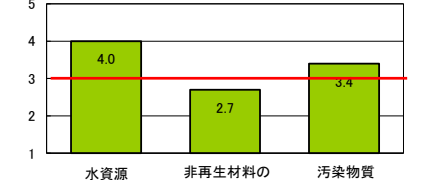
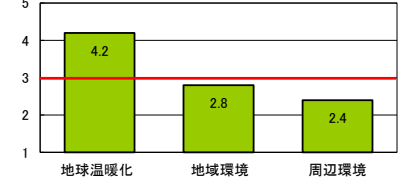


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)N3-5計画	階数	地上13F地下1F
建設地	愛知県名古屋市中区三軒三丁目503番1、503番2、503番3、503番4、503番5、504番1、504番2、504番3、504番4、504番5、505番1、505番2、505番3、505番4、505番5、506番1、506番2、506番3、506番4、506番5、507番1、507番2、507番3、507番4、507番5、508番1、508番2、508番3、508番4、508番5、509番1、509番2、509番3、509番4、509番5、510番1、510番2、510番3、510番4、510番5、511番1、511番2	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,260 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2024年7月1日
敷地面積	2,236 m ²	作成者	
建築面積	1,800 m ²	確認日	2024年7月30日
延床面積	24,123 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.2 ★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B+:★★ C:★ 	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外のオンサイト手法 ④ 上記+オフサイト手法 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 3.3		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.1 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1 
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 3.1		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.1 

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
市民に親しまれていた商業施設ビルの建替計画として、この地区の新たなシンボルとなる建物を目指した。カーテンウォールを採用しているが、ただのガラスのボリュームではなく、環境を意識した象徴的なデザインの外装計画とした。また、1階部分に壁面緑化を採用し、久屋大通公園の緑と今回の計画の緑を連続させ、都市に憩いを提示する。	
Q1 室内環境 T-2サッシの採用、吸音しやすい内装材とするなど、快適な音環境を目指した。また、Low-Eガラスの採用や冷暖房のゾーニング等、温熱環境に配慮した。光・視環境については全館照明方式でリモコンにて照明制御を行う。	Q2 サービス性能 執務スペースは一人当たり12㎡以上、天井高は2.8mとした。また、耐震性については建築基準法に定められた25%増の耐震性とした。
Q3 室外環境(敷地内) 屋上テラスに屋上緑化・壁面緑化を設置。	
LR1 エネルギー 特になし。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓、節水型便器を採用し節水に配慮。また、消火設備はN2とした。断熱材の発泡剤はODP、GWPの低い炭化水素系、HFOを採用した。
	LR3 敷地外環境 高効率機器の採用等によりBEI:0.61。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)N3-5計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	4.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	1.0	0.0125	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。